

NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.25

☐ 岡村の最近の注目ニュース ☐ ビジネス予備校近況レポート ☐ B-EAT 会活動報告 ☐ What's up?

2023 年 01 月

いつ始めても
遅すぎることはない。

2023/01

明けまして
おめでとうございます

新年は、激動の為替相場、ロシアのウクライナ侵攻による原材料価格の急騰や地政学リスクの増大、中国のコロナ政策転換など、幾多の火種を抱えての幕開けとなった。激動の環境下、ご自身の身を守るために、是非年初にしっかり自己点検をしてほしい。

みなさんは、EATにて学んだ“一挙手一投足に説明のつくビジネス人財”を実践できているか？

ご自身の言動に、常に1 Word 1 Sentence で簡潔に意義づけする意識が、自分軸の確立と的確な振り返りを可能とする。

その上で、あなたは何のプロなのか？と問いたい。

言い換えれば、給与を貰っている理由・根拠は何か？例えば、“事務のプロ”との表現では強みが伝わらない。“事務精度が他社比圧倒的に高いプロセスを設計・導入するプロ”と表現するとイメージが湧いてくる。なぜそのプロセスを作れるのか？と聞きたくなる。きっと、ユーザーのニーズを聞き取る力、物事に優先順位をつけて取捨選択する力、メンバーを動かす力、システムを造詣深く使いこなす力等々、細かくスキル分解できるはずだ。常に自身のスキルを客観視し、磨き続けるのがプロのプロたる理由だ。

次に、リスクリングと言うスキルを備えているか？

外的環境や個人の意識の変化、技術の急速な進化等により、生涯一つの領域に特化する人生は稀になってきた。“リスクリング”、すなわち“自身の新たなプロ領域開発のために保有スキルを棚卸し新規必要スキルを戦略的に獲得・付加する”姿勢が遍く重要性を増している。

因みに、自分のいまの仕事が消滅するリスクを実感を持って感じられる人はどれだけいるだろうか？私の為替投資課長時代、ユーロ統一通貨の誕生に為替電子発注システム導入が重なり、為替の売買を電話で取り次いでいたカスタマーディーラーという仕事は瞬く間に市場から消失し、各自がスキルの棚卸しを迫られた。自らを、世界の金融動向を見極める力を持ったプロと定義づけた者は、エコノミストや運用者に身を転じた。金融情勢に詳しく営業センスも持ち合わせた人財は、市場拡大が見込まれた投資信託営業にてプロ化していった。新たな挑戦のために、前者で言えば機関投資家の運用ポリシーの決め方や必要スキルをとことん学んだはずだ。後者で言えば、為替のみならず株式や債券の知識を深める必要があったことだろう。まさにリスクリングが身を助けた好例だ。

VUCA の時代に企業も人財も二極化していく。ご自身の意思で素晴らしい一年を作りましょう！

今回ご多忙の中、ご寄稿くださった廣本氏は、まさに自分の人生を自らの意思で切り拓いてきた方だ。クールな頭の回転と徹底して成し遂げるハートの熱さにいつも感銘を受けている。永遠に成長し続ける人生に憧れる。

VUCA の時代に 依るべきものとは

ジャパン・インダストリアル
・ソリューションズ株式会社
代表取締役社長

廣本 裕一 氏



筆者の属するプライベート・エクイティ（P/E）投資は、言葉通り非上場株式等への投資を生業とする業界である。P/Eの反対語はパブリック・エクイティ、即ち上場株式である。上場の両義性を言えば、市場から得られた信用力と資金調達力を表向き意味し、特にわが国では高い社会的ステータスを伴う。多くの起業家が目指す目標でもある。一方その反意は、経営者にとつて株価の永続的な上昇という

これを企業活動に当てはめてみると、生産拡大が意味するのは、表向き売上高や利益の拡大というポジティブなものであったが、その反意は原材料やエネルギーをより多く費消することであり、地球環境に負荷を掛ける事でもある。近頃流行りのDX（デジタルトランスフォーメーション）についても、表向きIT更にはAIの活用により経営判断を迅速化・高度化すると共に単純作業からの解放という事だが、反面では、システム構築や更新に多額のコストが掛かり、セキュリティ対策ではハッカーとの終わりのなき戦いが待っている。一部の従業員にとっては雇用喪失を意味する言葉かもしれない。こうした「両義性」をどのように乗り越えていくかが、今日の経営者に課せられた真の課題であると考える。

十字架を背負う苦難の道であり、株主からの増配要求、アクティビストからの攻撃にも晒されながら、開示義務（近年TCFD・気候関連リスクまで加わった）など上場を維持する為に高いコストを負担する事を意味する。もしP/Eファンドという後ろ盾を得る事で資金調達が出来るのであれば、高いコストやリスクを負って上場ステータスに拘る意味がどこまであるのか、非上場化という手段も充分考慮に値するのではなからうか。その先例は米国であり、上場企業数は96年の8,090社をピークに一貫して減少に転じ、現在ほぼ半減した状況である。その間P/Eファンドの傘下に入った（非上場）企業は1万社を超えており、ファンドや他企業による買収・非上場化と再上場を繰り返しながらトータルな成長をダイナミックに続けているのが米国の企業社会である。非上場化を選べば、アクティビストやTCFD対策に悩む必要は一旦なくなり、企業として本来果たすべき役割についてじっくり吟味した上で、事業ポートフォリオを整理する余裕が生まれる。勿論その上で再上場することも選択肢に残る。こうしたしなやかな発想が「両義性」を乗り越える一つの解ではなからうか。

「VUCA の時代」という表現が一般化しつつある。

Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の4語から頭文字を取って並べたもので、元々は軍事用語であり、90年代以降米ソ二大国の対立が崩れて多くの民族紛争、宗教対立という多次元の紛争が頻発するようになった状況を指していた。VUCA4語のうち最初の3語は、何れも先が読めない、という点でほぼ同義のように思える。問題は最後のAmbiguityだが、「曖昧性」というより、接頭語 Ambi（両方）が意味する「両義性」がより近いニュアンスを出すように思う。

B-EAT ビジネス予備校のOB/OGによる地域を超えた繋がりが

【オンライン対談】福岡大学経済学部教授 木下 敏之 氏

2022年12月16日（金）@ホテルオークラ福岡にて



ZOOMを通し、岡村との対談を福岡および東京のB-EATメンバーも参加し開催。人口が年々増加している福岡市を事例に日本の地方都市の今後を考える。いままで勢いを保ってきた福岡市も今後は少子高齢化および人口減少の局面に突入。いかなる対策が有効かみなで議論。対談の途中に、参加者同士の自己紹介も兼ねたグループディスカッションを少人数で実施。

●告知：対談第2弾「福岡の不動産概況および東京と地方の関係の考察」（仮）

福岡市に本社をおく、株式会社三好不動産の執行役員の方を迎えての対談。最近では、関東でも「旧かばちの馬車物件」を活用したシェアハウス事業「TOKYO β」を展開するなど福岡の賃貸物件管理を基盤としながらも新規事業に果敢に挑戦する。不動産業界を通して今後の国内市場の展望について、岡村との意見交換を予定しています。ぜひ、ご参加ください。

開催日：2023年3月17日（金）19時～ ※オンラインにて開催

What's up?

湯原 浩平
KOHEI YUHARA

EAT ビジネス予備校
福岡クラス（1期生）
古河電気工業株式会社
財務本部 IR部



昨年の1月から転職により拠点を福岡から東京に移しました。社会人人生も折り返しを迎えるところで心機一転新たな環境で挑戦してみようと思い、決心しました。前職とは業種や働き方、会社組織のありかたまで全く違うので、刺激のある充実した毎日を送っています。これからは、東京のB-EATにも参加したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。